第４回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会　議事概要

■開催日時：令和５年９月 15 日（金）13:30～16:00
■開催場所：高知県立人権啓発センター　６階ホール
■出席委員：黒笹会長、岡村副会長、坪井委員、百田委員、藤本委員、西脇委員、西内委員、吉村委員、門田委員
■議事：
（１）本年度の取組状況について（資料１に基づき県、市町村から説明）
〇県・市町村・漁協等の取組に対する委員からの主な意見
（岡村副会長）
・８/27 に開催されたこうち天然あゆ祭りは、その日に全国ニュースになり、観光客の感想も発信されていたことは素晴らしいことだと思う。
・河川のライブカメラについて、川のリアルタイム情報をお客様に対する入り口として整備し、それに親和性のある（観光などの）情報を付加しておくと効果があるのではないか。
（黒笹会長）
・それらの情報のポータルがあると便利かもしれない。例えば、あゆ王国のＨＰから入れるようにすると、他県の釣り人などが河川の情報に簡単にアプローチできるようになると思う。
・観光政策課の吉野補佐に（取組状況の説明であった）中山間とあゆの組合せについてお聞きしたい。
（観光政策課　吉野課長補佐）
・これからの高知県の観光として、高知の強みは、海・山・川がある中山間地域にあり、そこを観光してもらう際、周遊したり長期滞在してもらい、中山間で生きる人々の文化や知恵を（あゆも絡めて）知ってもらいたいと考えている。
（百田委員）
・所属先の一般社団法人和食連絡会議では、日本の食の根本に必ず「水」があることから、水についての分科会を立ち上げようとしている。和食は、出汁もあゆも日本酒も、すべてこの国土が生み出している水が根本にあり、水のためには山を維持していくなど環境問題につながり、SDGs にもつながるので、「あゆ王国」の動きとも何か連携できるのではないかと考えている。
（岡村副会長）
・ライブカメラの件でもう一点。ライブカメラのサイトを集めるのはいいが、こちらにシステムの管理権限がないと、こちらが見て欲しい付加情報を上手く見てもらえず、お客様はカメラの情報を見ただけで離脱していく。我々がカメラのサイトの権限を持てる状況で、情報を付加し、お客様を取り込むことができれば、デジタルマーケティングとして次のフェーズに進めると思う。

（２）作業部会の取組状況について（資料２～４に基づき事務局から説明）
〇県・市町村・漁協等の取組に対するの委員からの主な意見
（西内委員）
・集荷の試験で、高知市を中心に東西からあゆを広く集めてみたところ、効率化の部分でやりようがあるのではないかと思っている。

・また、昨年視察した和良川漁協の取り組みを参考に冷凍の試験も行ったが、高知では、取り組みやすく、良い商品が作れる集出荷場をモデルとして、その処理・冷凍で勝てる製品づくりをしないといけない。みなさんができる範囲のところで商品化をしないといけないと思う。

（黒笹会長）

・全国的に非常に高い評価を得ている和良川のあゆは、処理レベルが非常に高く、真似をするのは容易ではないが、高知のスタイルで出来るところまでやっていくのが次のステップだと思う。

（西脇委員）

・今年、海外の方が友釣り体験に来られたり、海外向け番組の取材があり、来年はもう少し海外客への対応が必要と考えている。海外の方は、川の環境、高知県の環境への感動が凄く大きく、友釣りや川に加え、そこに関わる人やその人の人生にも触れられるような旅行へのニーズがある。

（藤本委員）

・あゆの提供について安定供給ができなかったので、それをいかにしていくかが一つの課題。

・観光について、これからは高知県の観光で「学び・体験」というのは一番のキーワードになるのではないか。「らんまん」で牧野植物園や横倉山、牧野公園へお客さんがたくさん来ており、これは学びを体験するということの表れだと思う。これからはあゆを通じ、川を通じて学びを提供することが、ひとつの我々の観光資源ではないかと思う。

（坪井委員）

・自然体験について、自然を学ぶには時間が必要となるため、宿泊施設の充実が必要。グランピングの施設等も積極的にアプローチされてはどうか。北海道のフィッシング・ツーリズムの事例から、キャンプと釣りの親和性は高いと思っている。

・あゆ・川を通じた学びについては、百田委員からお話があったとおり、やはり水。あゆが食べる藍藻（らんそう）の質には水質が影響し、綺麗な水質の川でないと美味しいあゆは育たないので、「美味しいあゆ≒川が美味しい」と言える。あゆと水を絡めた環境プログラム・コンテンツがあっても良いかもしれない。

（観光政策課　吉野課長補佐）

・今夏の宿泊の課題について、泊まりたくても宿が無く泊まれない、という声があったが、これからは場所や宿泊日に偏りが出ないよう平準化する必要がある。夏だけじゃなく冬の魅力も発信し、長期滞在によって宿泊を平日にもシフトさせていきたい。また、その情報発信に力を入れていく。

（黒笹会長）

・坪井委員から「フィッシングツーリズム」という言葉が出たが、新しい体験型のキャンプスタイルということで、次のトレンドとなりそうな気配がある。高知はキャンプ場はたくさんあるので、キャンプしながら体験型の新しい楽しみ方をキャンペーンとしてやっていく手もある。また「アユイング（あゆのルアー釣り）」は明らかにこれからのトレンドになる。

（３）あゆ王国高知振興ビジョンの見直し案について（資料５～８に基づき事務局から説明）

〇改訂案に対するの委員からの主な意見

（吉村委員）

・アユイングについては、昨年から組合長会で話が出ていたが、まだほとんどの河川で対応できて

いないのが現状。仁淀川では先だってルール化し、友釣り専用区以外では、アユイングを実施出来るようにしている。他の河川では、針の数やハリスの長さに制限があるところもあるが、仁淀川では一切無いので自由にやって頂きたい。伝統ある釣り具や釣り方を残しながら、新しい釣りを認めて遊漁者が増えることを考えるのが漁協の経営にとって大事なこと。

・アユイングは全国的に遊漁者が増えているので、内水面の連合会に対しても推進している。

・組合長会の中で一番意見が出てくるのが、河川環境の話。四万十川は「最後の清流」、仁淀川は「奇跡の清流」と言われているが、現実を見ると本当に危機的な状態になっていて、これが続けば、「本当にあゆはおりますか？」と言われるような状態になるのではないかと組合長全員が心配している。河川環境を守ることによってあゆが育つ、あゆが育つ環境がなくなればあゆもいなくなる。

（門田委員）

・美味しいあゆはやはり水の綺麗さが一番。以前は、解禁時に川岸に行くと、あゆ独特の西瓜のような匂いが香ってきていたが今はそれが無い。いかに環境が大事かを感じた。

・流通に関して、県東部では、あゆは売るものでなくもらうものだ、という事が定着してしまい、流通経路が出来ていない。良いあゆがあってもほとんど売ることができず、地域振興に繋がっていない。

・あゆのルアー釣りに関して、芸陽漁協管内では規制していない。こちらでは何年も前から、釣り人はみんな１つはルアーを持っている。

（黒笹会長）

・アユイングに期待されることは、ルアーやフライといったジャンルの釣り人の参入が期待できること。相模川での成功事例もあり、アユイングの導入によって新しい流れが起こってくれることを期待している。

（百田委員）

・水は川や地質に影響されることから、あゆをはじめ、日本酒や野菜などの味は全て水につながってくる。

（黒笹会長）

・きれいな川のあゆは美味しい、ということは暗黙知だが、なぜ美味しいのか、どんな水がきれいなのかということを深掘りすることで学びにも通じるし、情報発信にも使える。

（坪井委員）

・キーワードは「鍾乳洞」。鍾乳洞の石灰岩からはミネラルが豊富に溶け出す。また、あゆが嫌がる砂も少ない。

・もしそういった条件の河川が高知県内にもきっとあると思うので、そういう河川はそれを使えば良いし、そうでないところもミネラル分の何かで売りが出てくると思う。「水・地質コンテンツ」のようなものが出来れば良いのではないか。

・また、このような会には河川管理者に入ってもらう方が良い。河川の中下流域は国交省の管轄なので、オブザーバーとしてこの場に参加いただき、我々が考えていることをお聞きしていただくと良いと思う。山・川、地質・水質など、取り組みを進めることで、より強力なあゆ王国に近づけるのではないか。

（水産業振興課　青野）

・先ほどの河川管理者の件について、ビジョン案の中に体制図を記載しており、県の関係部局の中に河川管理者として土木部が入っている。ただ、国交省は入っていないので、今後どのように関わっていただけるかなど相談してみようと思う。

（吉村委員）

・来年度は仁淀川であゆ釣りの全国決勝大会の開催が決まった。本部は柳瀬で行うが、そこに入る入川道などの整備はいの町だけでは負担が出来ない。何かしら整備に協力頂けないかという思いで発言した。

（黒笹会長）

・あゆ釣りの全国大会が行われる川というのは、あゆ釣りに関心のある人たちにとっては聖地みたいなもので、それに選ばれることは光栄なこと。

（水産業振興課　青野）

・門田委員からご発言頂いた流通販売の取り組みに関して、現状は集荷販売が難しいところだが、第２期ビジョンでは集出荷の場所を増やしていきたいと考えており、荷物を集め、県内外へ出していきたい。

・また水の話に関して、当方ではこれまで輸出業務に携わっておられた方をコーディネーターとして招き、輸出拡大の取り組みを進めているところ。コーディネーターによると、川の魚を売る際、日本のようなきれいな川は海外にはなかなか無いため、川の情報をセットで販売することが効果的、とまさに同じような話があった。

（黒笹会長）

・海外は意外と抜けていたところだと思う。海外の方にあゆを食べていただくためには、何らかの説得力のある数字や美味しい理由をお示しする必要がある。

（岡村副会長）

・第２期ビジョンについて、新たな価値を生み出そうとしている点、新しく頑張っているということをしっかり評価して貰いたい。

・第１期ビジョンの目指す姿に、「基礎の取り組みがさらに活発化する」、「新たな取り組みが生まれる」、「新たな連携が生まれる」、「新たな主体が参入する」とあるので、こういったことにもフォーカスを当てて、県民の方々やメディアの方々に応援してもらいたい。

（黒笹会長）

・第２期ビジョンの新しいステージに向けて、みなさんのより一層のご協力をお願いしたい。

以上